

## 令和7年度 大住保育園 自己評価

保育所保育指針では、「保育所は、保育の質の向上を計るため、保育の計画の展開や保育士等の自己評価を踏まえ、当該保育所の保育の内容等について、自ら評価を行い、その結果を公表するように努めなければならない」ことが明記されています。大住保育園の今年度の自己評価の結果を踏まえ、よりよい教育・保育に向けた改善や充実に取り組んでまいります。

### 評価結果の表示方法

1. よくできている 2. まあまあできている 3. あまりできていない 4. まったくできていない

自己評価項目	1.2.3.4 評価	評価内容
保育の計画性	1	保育所保育指針をもとに全体的な計画、月案、週案の指導計画を作成し、評価反省を経て次の計画に生かしている。 園の保育理念、保育目標は来年度に向けて再確認し、共通意識を持ち取り組んでいく。
保育のあり方、子どもへの対応	1	一人ひとりの発達状況に応じ保育を行い、個別のケースや配慮が必要な場合も幼児部会、乳児部会、職員全体の会議、毎日の朝礼で情報を共有している。 また、巡回指導など外部の専門家による指導を受けている。
保護者に対する支援	2	送迎時は健康面と共に子どもの様子を伝え、個人懇談は年2回行い、保護者の悩みや不安についても解消に努めた。アンケートでいただいた意見をもとに反省点は次年度に備える。 常に子育ての悩みや不安な気持ちに寄り添い、支援に繋がるように努力している。
保育を支える組織的基盤	2	職員の保育の質の向上のために外部研修計画を立て、研修を受け園全体でキャリアアップを目指している。職員間での連携を行いリーダー、主任、園長への報告、相談ができています。 毎日の朝礼報告、ヒヤリハット報告書、研修報告書、職員会議議事録等職員全体に周知徹底している。

### 来年度の目標

- ・ 様々な遊びを取り入れ楽しく体を動かす時間を確保し、運動習慣の基盤を作り、体力、運動能力の基礎を培う。様々な活動への意欲や社会性、創造性を育むことを目指す。
- ・ 3～5歳児の異年齢交流の取り組みを継続し、従来の年齢別クラスとは別グループでの時間（音楽・絵画制作・行事への参加）を作ることで、共に学び合い協調性や社会性等様々な能力を育む。
- ・ 写真配信等で保育内容をよりわかりやすく保護者に公開し、子どもたちの成長を共に喜び分かち合う。
- ・ 在宅育児中の保護者と子どもに子育てルームを利用してもらうことにより、子育て相談や乳幼児との関わり方を学ぶ機会を提供し、地域に密着した児童福祉施設としての役割を果たす。